

「次の仙台」をどう創るか—文化力、人材育成—



えんどう・だいき
1991年仙台市生まれ。34歳。
早稲田大学政治経済学部卒業後、住友商事(株)に入社。小売事業本部に配属されたのち、欧州発ライフスタイルブランドを展開する投資先の経営企画部に出向。事業計画の策定、データドリブン(データに基づいて判断する)経営基盤の構築、事業売却などに従事。その後、台湾に駐在、投資先の食品小売事業会社に出向。顧客調査をはじめとするマーケティング業務やデジタルツールの導入を主導。2024年8月、家業を継ぎ、(株)エンドーチェーン四代目社長に就任。現在は仙台駅前イービーンズの運営を通じ、地域の消費者の日常をより豊かにする商業空間の創出に取り組んでいる。

(株)エンドーチェーン 代表取締役社長 遠藤 大樹氏

「道を絶やさず、未来に繋げる責任感の重さ」
菅原 四代目社長に就任された時の正直なお気持ちはいかがでしたか。
遠藤 まず何より、遠藤家の先人たちが築き上げてきた道、そしてエンドーチェーン時代からご支援いただいているお取引さまや、仙台、東北のお客さまに対する感謝とともに、その歴史を絶やさず未来へと繋いでいく責任の重さを強く感じました。
また東北や仙台的諸先輩から私の知らないお話を伺うたびに、積み重ねられてきた歴史の深さと、それを引き継ぐことの意義を改めて実感しています。これが今の率直な気持ちです。
菅原 遠藤さんの祖父、故遠藤養一さんからは、経営哲学のようなものは伝授されていましたか。
遠藤 祖父は自分が元氣なうち

に、私に対し、自身の哲学を直接伝承したいと話していたようです。時期は曖昧でしたが、私自身必ず仙台に戻るとコミットしていましたが、そこは心配していませんでした。結果的に、直接仕事の話をするのは叶いませんでした。
菅原 常務であるお母さまからは、継承について何か言われていたか。
遠藤 母からは、事業承継については焦らずに、外で経験を積めるだけ積み重ねて、焦らずに待っていました。祖父に対しても、焦らずに待っていました。話してくれていたようです。
菅原 どのように会社を運営していますか。
遠藤 イービーンズは商業施設ですので、当社のテーマに沿ったテナントを誘致するのが収益構造の大きな一つです。

ます。例えば、万が一の時に家族に負担をかけずに済むような少額短期保険や、不動産の活用を含めた課題解決など、生活者が安心して老後を迎えるための不安要素を解消出来るかという点に力を入れています。清月記と付き合うと元氣になると言われる企業を目指しています。遠藤さんはいかがですか。
「出来ることはやらない、出来ないことに挑戦を」
遠藤 イービーンズの資産をどう活かしていくかです。まずは、テナン

トさんとのコミュニケーションをきちんと取り、抱えている課題を一緒に解決していきながら、館全体の売り上げを上げていくことです。その上で、館全体が連動して駆動するような、体験型イベントもしっかりと作っていきます。
そして、これまで磨いてきた点を面に展開しながら、仙台の活性化に貢献したいと思っています。



イービーンズ4階の「杜のガーデンテラス」で

アイドルのミニライブやファンイベント、サイン会や握手会などです。館内にはCDショップやアニメショップもありますので、そのテナントさまと親和性が高いイベントを開催すると、お客さまはアイドルと会えて嬉しい、テナントさまは関連グッズが売れますので、どちらにも喜んでいただけます。当社としてはイベントを通して、館全体の売上を上げていくことが重要です。
菅原 イベント企画は御社のスタッフが検討するのですか。
遠藤 我々が発案して実行まで持つていくのと、外部から提案されるものの2つです。
菅原 イベントは年間どのくらい開催しているのですか。
遠藤 大小合わせて年間200です。毎週末はほとんど開催しています。3階、9階催事会場や4階のエスカレーター前など、イベントが3本同時並行で開催されることもあります。これまで積み上げてきたイベント開催経験に裏打ちされた運営ノウハウは、弊社の核となる強みですね。
菅原 テナントはどうですか。
遠藤 約50テナントで、おかげさまで満床状態です。
菅原 テナントやイベント情報の収集はどのようにされていますか。
遠藤 リーシング会社やコンテンツ権利元との継続的なコミュニケーションに加え、東京を拠点としている弊社常務と連携して情報収集に努

仙台の次世代経営者 presence 対談



(株)清月記専務取締役 菅原 啓太氏

すがわら・けいた
1988年仙台市生まれ。中央大学経済学部卒業。(株)清月記専務取締役。2021年1月、公益社団法人仙台青年会議所第70代理事長就任。趣味は旅行。

連載 第20回

仙台、日本を拠点に、国内ばかりでなく、世界市場を見据えながら事業を展開している次代を担う若手経営者らに、活力ある仙台の経済活動や人材育成の在り方、そしてこれらの時代を生き抜くために必要な価値観や視点を、(株)清月記の菅原啓太専務が聞き出します。

なるべく少ない負担で、葬儀にそなえる。

清月記の保険



少ない負担で、葬儀費用や生活費をしっかり準備。家族に迷惑をかけず、安心の備えを。
20~80歳申込OK!
99歳まで更新可能!

資料請求はこちら



お問合せ

0800-888-5777